



中地域包括支援センター 社会福祉士

小川 緑

OGAWA MIDORI

1988年 新潟市秋葉区出身  
2016年 柏崎市へ  
2019年～柏崎市中地域包括支援センターに  
勤務

今年3月、中地域包括支援センターが市内田塚から松美町内に移転、リニューアルした。元は建設会社の事務所として使われていた2階建ての建物内は相談室や会議室の他、エントランスホールには介護用のベッドや車椅子、歩行器、高齢者用のシューズなども展示。自然光を多く取り入れた明るく気持ちの良いスペースになっている。

現在柏崎市では、市内を5つの生活圏域に分け、7カ所の地域包括支援センターを設置している。地域包括支援センターの運営主体は市町村。市から委託を受けた病院、社会福祉協議会などが運営を行っている。

ちなみに、中地域包括支援センターは市から委託を受けた柏崎総合医療センターが運営の母体となっており、比角・田尻・北鯖石地域に居住する主に65歳以上の高齢者の人たちが支援の対象者。他、市内6カ所の地域包括支援センターでもそれぞれの圏域ごとで、同じように支援が行われている。

この中地域包括支援センターで、社会福祉士として仕事をすることになって3年

目という、小川緑さん。社会福祉士を目指すしたのは子供のころ、病気でまひのあった祖父の手助けをしたことがきっかけになった。介護や医療福祉に関する仕事がしたいと4年制の専門学校で社会福祉士の資格を取得。介護の現場も学びたいと特別養護老人ホームで介護士の仕事も経験した。

24時間毎日続く施設や自宅での介護に携わる人たちが少しは楽になれるよう、本人が辛い思いをしないように手助けしたいという思いが強まったと振り返る。

結婚を機に柏崎市へ移り、改めて社会福祉士の資格を生かした仕事に就きたいと就職。縁あってこの中地域包括支援センターで勤務することになった。

社会福祉士として小川さんが担当する内容は、虐待の通報窓口・防止のための働きかけ、消費者被害に遭った人の支援、お金の管理が難しくなってきた方に対して成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用するための支援などさまざま。

例えば消費者被害に遭われた方の相談対応では、消費生活センターと連携を図る。地域に住む高齢者のさまざまな相談を受け、適切な機関や制度・サービスに繋ぐことが地域包括支援センターの仕事だ。まずは地域包括支援センターの3職種（主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士）でしっかりと相談に対応することが大切と小川さんは話す。

「ささいなことでも自分の困りごとを相談するのはとても勇気のいること。相談してよかったと思ってもらえるような仕事をしたい」とほほ笑んだ。



お問い合わせ

柏崎市中地域包括支援センター  
柏崎市松美2-2-41

☎0257-24-6715 📞0257-23-6116

比角、田尻、北鯖石にお住いの方対象

\*センターへご相談の際は電話にてご連絡をお願いします